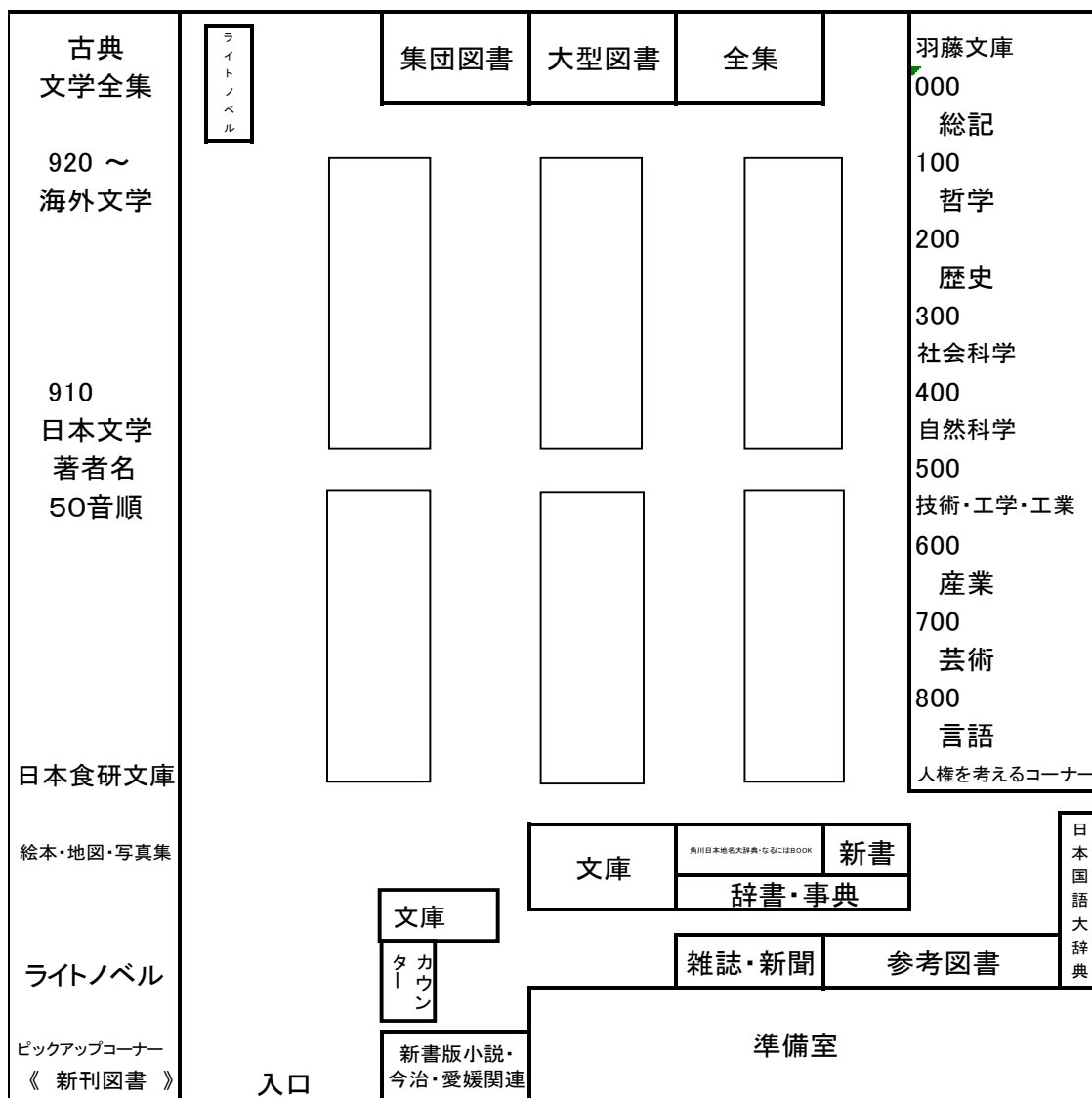


新緑の美しい季節になりました。  
 1年生の皆さんはもう高校生活のリズムになれましたか？  
 上級生の皆さんは気持ちも新たによいスタートがきれたでしょうか？  
 あわただしい日々が続きますが、時には読書をしてホッと一息ついてみてはいかがでしょうか。  
 今月号は図書館の案内と利用方法をお知らせします。



## 今治南高 図書館案内



図書館には様々な本がたくさんあります。一冊でも多く手に取り、楽しく豊かな時間を過ごしてください！



【開館時間】 昼休み・放課後（16：40まで）

【期間・冊数】 1週間 ・ 一度に5冊まで

【利用マナー】

- ① 荷物（カバン・コート類）は持ち込まず、入り口のロッカー棚に置く。
- ② 飲食禁止（アメ・ガム・水筒も禁止）
- ③ おしゃべりをしたり、騒いだりしない。
- ④ 本は必ず元にあった場所に戻すこと！



**本は必ず貸出し手続きを済ませること。**

**勝手に持ち出したりすることは厳禁です!!**

★ 年間貸出し冊数が1～3位の上位者には、多読賞の表彰があり、副賞として図書券が贈られます。上位入賞目指してたくさん読みましょう！

初めまして。今年度から今治南高校へやってきました、頼本奈波と申します。今回から図書コラムを担当させてもらうことになりました。毎回楽しんで書きたいと思えます。

記念すべき第1回目に紹介するのは、私が最も好きな作家である瀬尾まいこさんの『そして、バトンは渡された』です。家族や人とのつながりを温かく描いた作品です。主人公、森宮優子には血のつながった親二人とつながりのない親三人、計五人の親がいます。ん？と思われたことでしょうか。私も最初読んだときは設定がうまく頭に入りませんでした。しかし、読み進めるとだんだんと見えてくるものがあります。個性豊かな親たちが、いかに優子を愛しているか。そしてその愛を受け取った優子の強さに、ページをめくる手がとまりません。どの親も魅力的で、形の違う愛情がこんなにもあるのかと驚きでいっぱいでした。

そして、この作者の最も魅力的なところが、人と人とのつながりを強調させる食事のシーンです。何気ない毎日の中の食事に宿る優しい時間。皆さんは誰と食事をとっていますか？大切な人、初めて会う人、距離がまだ遠い人、どんな人とも食事でも心が少しずつ近づく。そんな時間は誰にでもあるものです。当たり前前の日常が一番の幸せだということを作者である瀬尾まいこさんは教えてくれます。

400ページ近くある本ですが、家族との絆、優子の恋、題名の意味など気になって読んでいるとあっという間に最後のページをめくることになると思います。生徒の皆さんには、高校生の主人公である優子の視点から、先生たちには親や教員としての視点から楽しめる作品だと思います。忙しい春ではありますが、少しの息抜きに誰かの物語をめくってみてはいかがでしょうか。